

生物生産科学科 S.A.



全体的な感想

私は8月から12月まで、タイはバンコクにあるカセサート大学農学部で5ヶ月間勉強させていただきました。現地ではタイ人の学生の他に、AIMS プログラム参加のインドネシア人学生や日本人学生や他のプログラム参加のヨーロッパ人学生など、多彩な国籍の学生と関わる機会をいただき、その中で、同年代の人たちから大きな刺激を受けました。例えばインドネシアの学生は高い英語力や積極的に人と関わろうとする意識を持っていて、彼らのおかげで新しい人間関係を築くことができたし、タイ学生の温かいサポートには、現地の文化や歴史に触れ、新しい価値観を身につける機会を数多くもらいました。また、同じ日本人の学生とも問題を乗り越えあって成長できたと思います。

今回が私にとってはじめての海外生活でしたが、周りの人々のおかげで素晴らしい体験ができました。日本においては決して得られなかったことだと強く思います。関わりのあった人達に感謝をするとともに、彼らに恥じないようにこれから日本で頑張ろうと思いました。

履修科目

Introduction to Tropical Agriculture (3 単位)

Food Sanitation (3 単位)

Paradigm in Agricultural Extension (3 単位)

Animal Resources & Management (3 単位)

授業から学び得た専門的な内容について

Introduction to Tropical Agriculture では、東南アジアにおける高温多雨な条件下での農業の歴史・発展について、タイだけでなく、インドネシアやミャンマー、ラオスなどの国が抱える問題について学んだ。特に、持続可能な農業と農民の自給自足に向けた具体的な取り組みの紹介が印象深かった。Food Sanitation では、露店や個人経営の飲食店における衛生管理から国際市場で取引をする食品工場の品質管理までを、原料、病原菌、施設、輸送など様々な面から考え、学生同士で具体的な意見交換を行った。Paradigm in Agricultural Extension では、農業従事者の生活改善とタイの国力増進を目的とした農業支援について、新技術の開

発・普及のために必要な考え方を学んだ。心理学を用いた現場農家との関係改善方法など、初めて知ったことが多かった。

Animal Resources & Management では、育種、畜舎、市場などの面からタイにおける家畜生産の現状について学んだ。

自らの専門分野との直接的または間接的な関連性について

Animal Resources & Management や Food Sanitation の内容は、日本で既に受けていた講義と被るところがあった。特に、育種や家畜の飼育管理は専門的な内容が多かったので、事前知識がないと理解が難しかった。また、すべての講義を通じて、食の安全や持続可能な農業について触れられていて、農業の国際的な風潮も押された内容になっていた。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点

専門科目を英語で受けなくてはならなかつたため、進行速度に遅れないように、疑問に思ったことはその時に調べ理解するなどに努めた。また、すべての授業において学生同士での話し合いやプレゼンだったので、大人数のなかでも意識して発言することを意識し、与えられた問い合わせの中で日本とタイにおける差異をとらえるようにしていた。時には現地の政治状況や法律についての知識が必要な場面のあり、タイ人学生に教えてもらうこともあった。

生物生産科学科 T.M.



全体的な感想

最初は英語で話すことも聞き取ることも難しく、弱気になりがちでしたが、周りの友達に助けられながら少しづつ慣れることができました。カセサートの学生の他に、他国からの留学生と交流できたのも良い刺激になりました。タイの人々はとてもおおらかで、どんな時も笑顔で接してくれました。日本と気候も文化も全く異なる環境での生活は新鮮で、楽しい経験でした。

履修科目

Introduction to Tropical Agriculture (3 単位)

Food Sanitation (3 単位)

Paradigm in Agricultural Extension (3 単位)

Animal Resources & Management (3 単位)

授業から学び得た専門的な内容について

Paradigm in Agricultural Extension の授業では、タイ国内における農業の普及と革新、および持続可能性などについて、農学だけでなく経済学や哲学といった視点を交えながら幅広く学習した。現在の農業における課題についてディスカッションを行ったほか、農家を訪問して実際の農業への理解を深めた。

Introduction to Tropical Agriculture の授業では、タイを中心とした東南アジア諸国の農業について学んだ。熱帯ではどのような作物の生産がさかんに行われているか、どのような栽培方法がとられているかなど、熱帯での農業に関する基礎的な知識を身につけた。

Principles of Tropical Agronomy の授業では、熱帯における作物の栽培について学んだ。熱帯の気候の特徴を踏まえながら、作付時期の選択、水や雑草の管理、さらにバイオテクノロジーによる作物の改良などについて、熱帯に適した農業を営む上でどのような方法が効果的であるかを学習した。

Food Sanitation の授業では、食品衛生について学び、食中毒の事例をもとに病原菌や媒介生物について学習した。また、学内の食堂見学を通して適切な公衆衛生への理解を深めた。校外学習では機内食の製造施設を見学し、実際の衛生管理がどのように行われているかを知ることができた。

自らの専門分野との直接的または間接的な関連性について

専門分野は植物生産科学であるため、今回履修した 4 科目のうち、Introduction to Tropical Agriculture や Principles of Tropical Agronomy の授業で学習した内容は、これまでに茨城大学で学んできた作物学、園芸学、土壤学、昆虫学などと共通す

る部分が多かった。そのため、授業を受ける上でこれらの学問の知識が非常に役立った。温帯の日本と熱帯のタイでは、栽培される作物の種類や栽培の方法など異なる点も多いが、今回の留学を通じて植物生産に対する理解が深まるとともに、農業への興味・関心がより強まった。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点

履修できる科目の中から、専門分野と関連する科目を選択した。英語で開講される授業であるため分からぬ単語が出てくることも多く、欠かさず辞書を用いて調べるようにした。授業中に理解できなかつた部分は先生や友人に聞き、その上で復習することが非常に重要であった。レポートやプレゼンテーションも全て英語で作成したが、その際は難しい文章にするのではなく、読み手や聞き手に自分の表現したい内容がなるべく正確に伝わるよう、平易な文章を書くことを心がけた。

生物生産科学科 A.M.



全体的な感想

履修科目

Introduction to Tropical Agriculture (3 単位)

Food Sanitation (3 単位)

Paradigm in Agricultural Extension (3 単位)

Animal Resources & Management (3 単位)

授業から学び得た専門的な内容について

Paradigm in Agricultural Extension : 農家、行政、研究員のつながり、過去から現在までのつながりや取り組みの変化、タイ独自の農業政策、タイ国内のみでなく世界における農業政策における取り組みなどを学んだ。哲学的な考え方、対策ごとの定義や原理、それぞれの目標とゴールを学んだ。

Introduction to Tropical Agriculture : 热帯地域、特に東南アジアにおける農業の現状、課題などについて学んだ。タイにおける農作物の生産状況、熱帯地域での土壤問題、養殖、農業機械などについて基礎的な知識を得た。

Principles of Tropical Agronomy : 热帯地域の気候、農業技術（機械化、遺伝子組み換え等）、土壤の準備や養分、種の貯蔵法、雑草などについて学んだ。それぞれの分野の教授が基礎的な内容を幅広く教えてくれた。また、レポート課題を通して自らが興味を持った熱帯作物の栽培方法や生活環、栽培技術を調べてまとめ、プレゼンをしたことによって、熱帯作物と日本の作物の様々な違いを実感した。

Food Sanitation : 主に食品衛生と店舗デザインについて学んだ。食品の保存方法（温度や場所）や扱い方、食中毒（それぞれの症状、発生原因、対処法）、HACCP、GMPについての知識を得た。また、お店の内装のデザインの考え方を学び、グループでプレゼンを行った後、フィードバックをもらった。フィールドトリップもあり、実際に企業を訪ねて、食品衛生の講義と食品の管理状況の見学をさせてもらった。

自らの専門分野との直接的または間接的な関連性について

私は生物生産学科の植物コースであるため、“Introduction to Tropical Agriculture”および“Principles of Tropical Agronomy”はとても興味深い内容であった。前者では熱帯地域における農業のあり方、特にタイの農業の現状、課題、日本との違いを明確にすることができた。後者では主に気候や農作業の方法、例えば作物を植える前の土壤の管理方法や雑草の駆除、農業機械の特徴などを学んだ。日本が後に直面する気候変化への対策の方法、つまり栽培方法の開発における考え方の1つを身に付けることができたように思う。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点

講師の話を聞くのはもちろん、配布された資料の翻訳、習った内容と同じ内容の日本語のサイトや情報を探すなどし、授業内容の理解に努めた。また、自分で理解しきれなかったときは、日本人留学生や他の国からの留学生、先生に質問をするなどして解決した。とにかく、日本語に訳して内容を理解、記憶し、自分のレベルにあう英文に直してテストを乗り切るようにしていた。この方法では英語力や語彙力の向上はしにくいと分かってはいたが、時間的な余裕がなかったためこのような方法を実践した。

資源生物科学科 Y.N.



全体的な感想

カセサート大学への留学はとてもよい経験となりました。大学のタイ人は学部生、院生、職員の方、だれもがみな親切にしてください、とてもフレンドリーでした。また他の国から来ている学生とも仲良くなり、彼らから文化や価値観の違いを学ぶことができました。タイという国についても、國のあり方や日本との違いを意識する場面が多くありました。王国ということで政治的、社会的面で特にそれを意識し、考えさせられることがありました。この留学を通して、新たな見識を得ることができました。

履修科目

Introduction to Tropical Agriculture (3 単位)

Food Sanitation (3 単位)

Paradigm in Agricultural Extension (3 単位)

Animal Resources & Management (3 単位)

授業から学び得た専門的な内容について

Introduction to Tropical Agriculture は、タイ王国という熱帯に位置する国での農業の基礎についての全般を学んだ。日本では熱帯農業についての知識をほぼ学んだことがなかったので、違いや類似点などに気づくことができた。特に、水産業や林業、また農業を発展させていく上での国の取り組みやその考え方を学ぶことは、自分にとって新鮮なものとなり、有意義であった。Food Sanitation は、私自身が食品や食品衛生について興味があったので選択した科目でした。食品衛生の基礎的な知識は、もともと少し持っていて、そのような内容の授業内容もありましたが、思ってもいなかつたような建築学の側面から食品衛生を学んだり、フィールドトリップで航空会社の機内食を作るケータリング会社に訪問して、製造・管理システムを直接目にしたりすることで非常に良い経験となった。Paradigm in Agricultural Extension は、タイにおける過去から現在までの農業の発展について、哲学的観点なども交えて学び、どのようにすればより良い農業につながるかを考えることができる授業内容で、初めてこのようなことを考えることができる機会となった。Animal Resources and Management は、牛、豚、家禽、小反芻動物などについてそれぞれ詳しく特徴や飼育・管理の方法を学び、また動物資源の活用法やエネルギー資源の問題についても学ぶことができた。

自らの専門分野との直接的または間接的な関連性について

私の研究室の専門分野である遺伝子の組み換えやそれにかかわるものとの直接な関連性があることは、授業では習わなかつた。しかし個人的に調べたことでは、日本では GM 作物の一般的な栽培が禁止されているが、タイでも同様に栽培が禁止されていることを知つた。しかし大豆などの GM 作物の輸入に関しては、これも日本と同様に行われていて、家畜の飼料や大豆加工製品として利用されていることを知つた。こうしたタイでも GM 作物に対する安全性の問題が起こっていることが分かつた。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点

私にとって今回が初めての海外で、英語力にもさほどの自信はなかつたので、最初のころは授業中に出てくる知らない英単語や言い回しを、電子辞書を使ってその場で調べ、授業を聞くことに専念した。先生によってはなまりがきつい場合もあるので慣れるまでに時間がかかつたが、慣れてからは余裕をもつて授業を聞くことができるようになり、それでもわからない英単語等は授業後にノートにまとめるなどした。また授業のスライドのデータをもらって、復習することに力を注いだ。

資源生物科学科 R.M.



全体的な感想

私はタイのカセサート大学に留学しました。カセサート大学では、熱帯農業や、食品衛生、畜産などの授業を受けました。最初は、友達作りも授業も不安しかありませんでしたが、タ人の友達だけでなく、同じ AIMS プログラムのインドネシアや日本の友達もでき、テストも皆で励ましあって乗り越えることができました。この留学生活でたくさんの人との出会いや、日本ではできない経験がたくさんでき、最後には日本に帰りたくないくらい充実した留学生活を過ごすことができて、留学というチャレンジをして本当に良かったなと思います。東南アジアの国々は土地も人も素敵で過ごしやすいので、少しでも留学や国際交流に興味がある人はぜひチャレンジしてみてほしいです。

履修科目

Introduction to Tropical Agriculture (3 単位)

Food Sanitation (3 単位)

Paradigm in Agricultural Extension (3 単位)

Animal Resources & Management (3 単位)

授業から学び得た専門的な内容について

‘Introduction to Tropical Agriculture’では、タイやその周辺の東南アジア地域の熱帯農業について学びました。農業機械や漁業、東南アジアの農業の現状など様々な分野を広く学びました。タイは思って以上に農業技術が進んでおり、持続可能性を意識した農業が進められていることがわかりました。

‘Food Sanitation’では、食品製造者の服装や GMP、HACCP など食品の衛生管理について学びました。タイで食品の衛生管理がしっかりと行われているイメージがあまりなかったのですが、工場や飲食店ではきちんと管理基準が設けられていることがわかりました。また、THAI Catering という機内食などを製造している工場の見学もできて大変興味深かったです。

‘Paradigm in Agricultural Extension’では田舎の農家に農業の知識を伝え、農業を発展させていくためには何が必要なのかや、タイでは前国王が国民から大きな信頼を得ており、その国王が農村の発展をサポートする政策を行ったことなどを学びました。

‘Animal Resources and Management’では、タイの豚、家禽、牛、ヒツジ、ヤギ等の畜産について学びました。ただ大量に生産するだけでなく、排泄物の管理や環境にやさしい技術など、持続可能を意識した畜産が行われていることがわかりました。

自らの専門分野との直接的または間接的な関連性について

資源生物化学科では主に化学や食品、バイオテクノロジーなどについて学んできました。直接的な関係があるのは‘Food Sanitation’の授業でした。私の所属先の研究室は食品の衛生管理や微生物の研究を行っているので、個人的には関連性がありました。その他 3 つの授業は直接的な関連性はありませんでしたが、農業について広い視野で学ぶことができたと思います。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点

わからない単語を調べて、まとめたノートを作ったこと。
わからない部分は徹底的に全訳してみたこと。
同じ AIMS プログラムのインドネシア人の友達にわからないことを聞いたりしたこと。
先生にスライドのデータをもらえないか交渉したこと。
早めにデータがもらえない授業は自分で写真を撮ったこと。
先生が大切だと言ったところは徹底的に勉強したこと。
タイ人の友達で同じ授業を取っていた人にテストのポイントを聞いておいたこと。